

この学校にわたしたち

2022. 11. 10

N044

占いは いずれも吉と 木守柿 宇多 喜代子（俳人）



晴天の日、車を運転していると真っ赤に色づいた柿の実がたわわに実っている景色をみかけます。このたわわに実った柿がすべて収穫されたあと、たったひとつ枝に残す風習があります。これは「木守柿」と呼ばれ、小鳥たちへのおすそ分けとも、翌年、豊かに実るようにとの祈りをこめて残されているとも言われています。人間も自然と共生している一員として小鳥たちへの思いやりや自然そのものに対する感謝

の気持ちが表れている行為として素敵だなと思いました。「木守柿」には次のようなエピソードがあります。後に千利休が名作と見立てたと伝えられる七種の茶碗の中から、お弟子さんたちに好きなものを選び取らせたとき、1つだけ残った茶碗がありました。利休はそれを、木守柿のように1つだけ残ったという意味で「木守」と名づけたと言われています

11月も中旬となり、今年度も1年の折り返し地点を過ぎました。以前に学校だよりで書きましたが、秋は春に種を蒔いた植物が芽を出し、成長し、花を咲かせ、実をつける時期です。学校ではコロナ禍、工夫をしながらそれぞれの学年で子どもたちの知的面・精神面で成長できるよう、授業・行事等、様々なことに取り組んでいます。残り4ヶ月余。学校として子どもたちの心の中に来年、1人1人が豊作になるようにという願いをこめて、どんな「木守」、いや「能力」「自信」を残してあげられるか…担任をはじめ職員全員で後半も取り組んでいきたいと思います。

☆☆☆朝の校長室にて☆☆☆

毎朝、登校してきた子どもたちが校長室に来てくれています。最近は1年生の子どもが校長室のソファを移動させ、“アスレチック”と名付けて跳んでいます。7日（月）朝、ある男の子が「校長先生、二ホントカゲがウインクしてくれた」と言って手にもっていたトカゲを見せてきました。いつも子どもたちのこういう素朴な言葉にとても心が癒されます。後からきた別の1年生の男の子は「校長先生、今日の服、かっこいい」「ネクタイもいい色やなあ。かっこいい。」と褒めてくれました。子どもって本当に素敵な感性をもっているなあ（別に自分が褒められたからではありませんが…）といつも思うと同時に、この感性を大切にしていきたいなあと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆